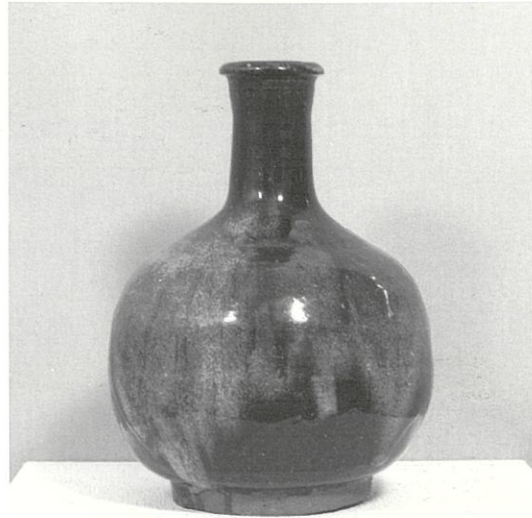


山ノ神焼

創業は安永5年(1776年)ごろに始まり、大正15年(1926年)に廃絶するまで、約150年間に渡り焼き継がれたと伝わります。地元の粘土を用い、掘り取って乾燥させた後、粉にして手で練りロクロで仕上げました。主に甕・片口・すり鉢・花瓶・擬宝珠・火消し甕などの生活道具を製作し花泉、三方嶋、佐沼、築館、涌谷互市などで販売されました。



擬宝珠



徳利



花瓶



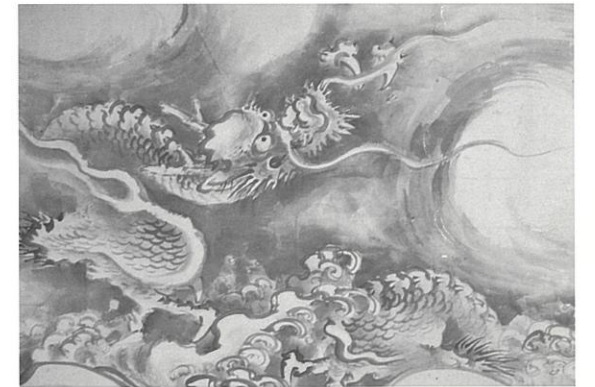
不老仙館 (市指定文化財)

不老仙館は元は東和町狼ノ河原の畠山家にありました。嘉永5年(1852年)に畠山源兵衛の時、伊達慶邦公の北部巡視の際に建築されました。明治39年(1906年)に佐藤新助が凶作の救済事業として買い受け現在地(東和町米谷)に移築しました。不老仙館には明治時代から北村西望(彫刻家)、岩谷小波(児童文学作家)、三笠宮妃殿下、高松宮宣仁親王などが訪れています。襖絵・衝立・書額には県内外の文人の作品を見ることができるほか、鏡台・御所人形・櫓時計を初めとした美術工芸品が多数展示されています。



不老仙館外観

衝立 (入間川南溪画)

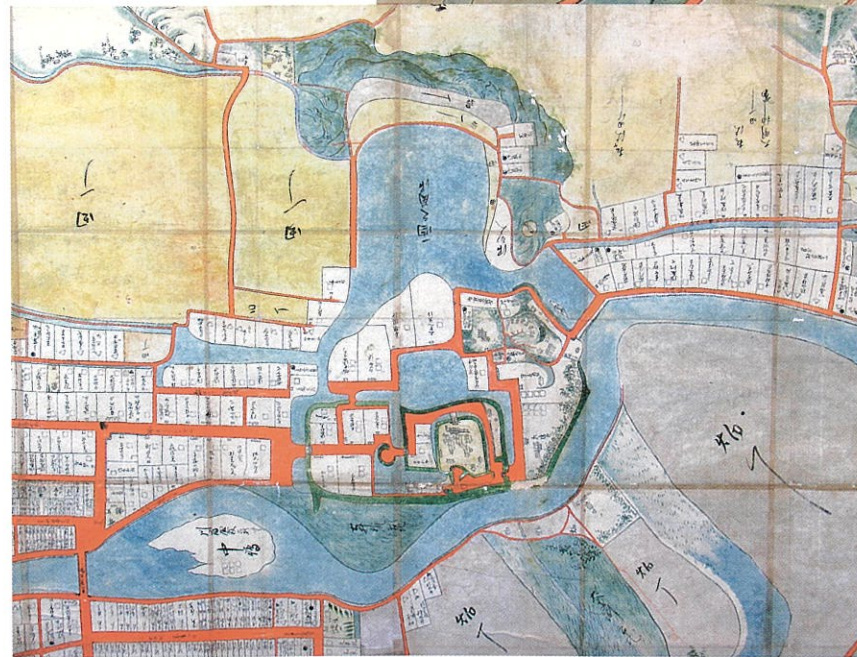
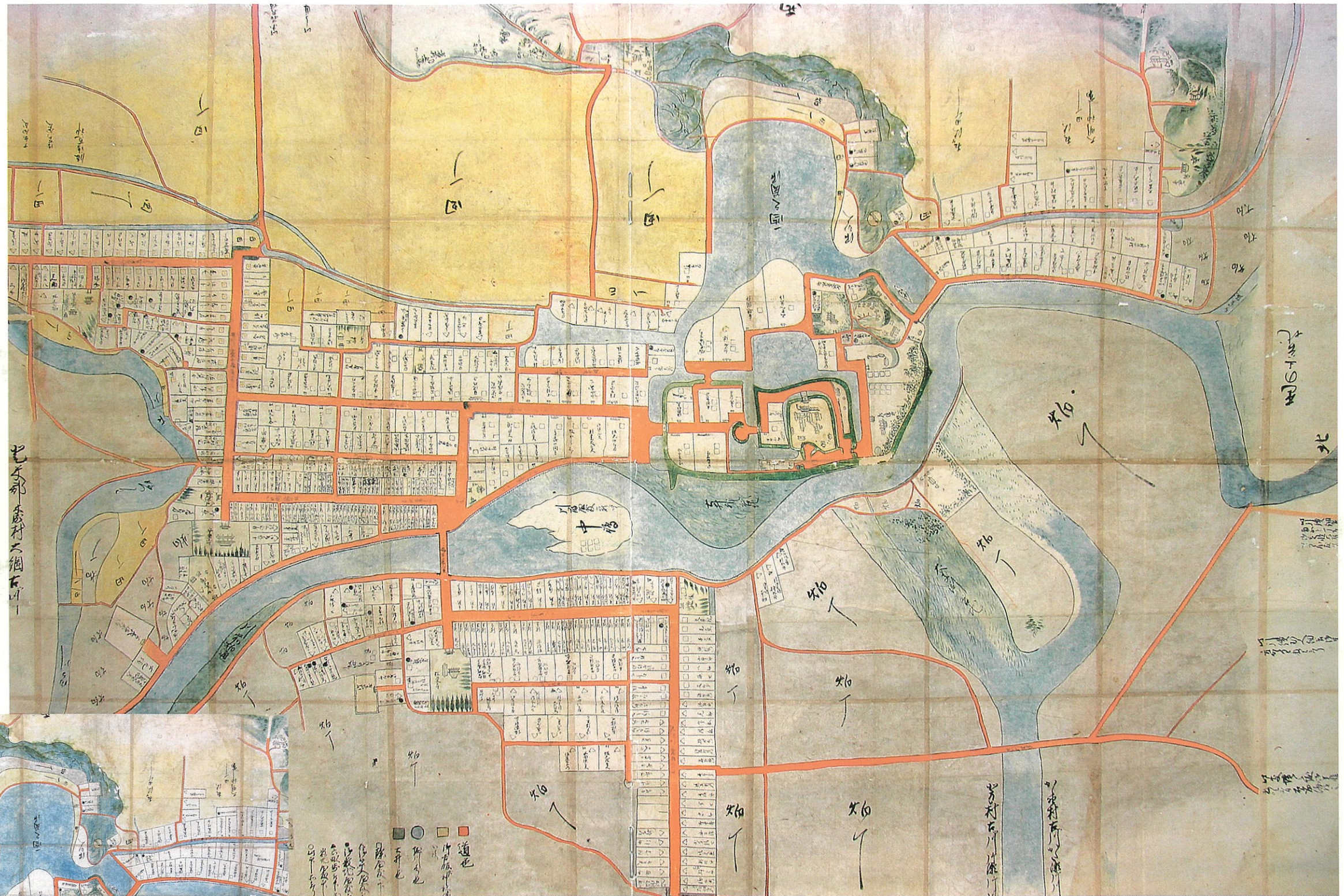


昇竜図



山水図

表面は昇竜図、裏面は山水図で描かれている。入間川南溪は一関藩の人で山水画に長じた人物である。



佐沼要害絵図 (宝暦年間)

佐沼巨理家は伊達家一家の家格で、宝暦7年(1757年)五代倫篤の頃高清水から佐沼要害5千石を拝領して移封となりました。この絵図はその際に制作されたものと考えられますが、製作年代などは記されていません。